

# 児童・生徒

## 作品コーナー

三月十五日に、光中学校の卒業証書授与式が行われ、一九四人が思い出多い母校を巣立ちました。

今月の作品コーナーは、卒業を控えた三年生が将来について書いた作文をご紹介します。



越川りつ子

### こんな人になりたい

今の自分を、好きか嫌いかときかれたら、私は「キライです」と答えると思う。何かあるとすぐ悩んだり、自分を卑下したり、それに、自分が今何をしたらいいか、どんなことをしたいのか、熱中できるものがないからだ。毎日が昨日と何も変わらない、本当につまらない日々を送っているのが自分でもわかる。

そんな私があこがれている人は、「何か夢中になれるものを持っている人」と「人の気持ちをおもいやれる人」だ。「何か夢中になれる物をもっている人」



卒業証書授与式

にあこがれたのは、少し前話題になった、「チョモランマ」の影響がかなりある。初めのうちは、テレビをつけると映っていた映像を見るだけという感じで、ただ「すごいな」と思うだけのものだった。

それが、ほんの二、三秒しか映っていなかった、ちょっととしたシーンに、本当に何か強くひかれたのだ。

そのシーンは雪でおおわれた急斜面を多くもくと、登っている一人の姿だった。言葉もなく、ただ頂上だけを見つめ、一心に進んでいく姿には、「自分の信じる道」というようなものが、しっかりとつづっていた。とても危ない、ひよつとしたら、自分の命をも落としかねない、そんな山に夢中になって、「山で死ぬるなら本望だよ。」そんなことがいえる男の人

### 何か夢中になれるものを持っている人 人の気持ちをおもいやれる人

それと、

この二つが、人間にとって一番大切なことだと私はおもい、あこがれている。「失敗した時や、つらい時、ニコツと笑えるヤツになりたい。」ある人がこんなことをいった。確かにつらい時こそ、笑ってがんばらなくちゃいけない。苦しいとかつらいとか、表にだすのは、自分に負けることになるんだと思う。

たちが、とてもうらやましく思えるのと同時に、そんな人たちと、今の私の姿をくらべてみて、自分は一度でいいから、こんなふうな充実した時をすごせるのかと、不安を感じた。

何かに熱中できるっていうのは、勉強なんかよりもずっと必要で、むずかしいことだと思う。そして、それに一生懸命とりくむのは、人生の中で一番かがやける時なんじゃないだろうか。一生懸命っていうのが、かっこ悪いとか、はずかしいとかいわれるこの時代で、かがやいている自分に会えるっていうことは、とても素晴らしい。私だって一生懸命やるってことが、なぜかはずかしいと思うことがあるから。

それに、「人の気持ちを思いやれる人。」自分が幸せな時、悩んでいる時、どうしても周りのことまで考えられないことがある。そんな時でも、自分が幸せになったその影で、不幸になってしまった人や、悩んでいるせいで、周りの人達におよぼす影響を考えていけたら、自分だけでなく、みんなも幸せになれると思う。

この二つが、人間にとって一番大切なことだと私はおもい、あこがれている。「失敗した時や、つらい時、ニコツと笑えるヤツになりたい。」ある人がこんなことをいった。確かにつらい時こそ、笑ってがんばらなくちゃいけない。苦しいとかつらいとか、表にだすのは、自分に負けることになるんだと思う。

けど、私はどうだろう。つらい時でも、笑ってがんばれるだろうか。そんなときつとあきらめてしまふんじゃないだろうか。「つらい、苦しい、もうやめたい！」言葉に、顔に、態度にだして、いやなこととは全部表にだしてしまふと思う。私は、私自身から逃げだそうとするだろう。けれど、やっぱりそんな弱い人間にはなりたくない。今おかれている状況から、目をそらしてしまふような、何かをのりこえられないような、そんな人生はおくりたくない。いつでも、「自分が選んだ道」を進んでいけたら……。

もしかしたらこの先、どうしてもこのこえられない壁にぶちあたって、その場から一歩も動けなくなる時があるかもしれない。そんな時、自分で自分をほげませるような、そんな人になりたいと思う。

これからの私の課題は、「何か一つ、本当に夢中になれるものを探して、夢に向かってつらい時も、悲しい時も、苦しむのは表にださず、笑って自分に『ファイトッ！』っていえる人になろう」にきめる。とっても、大変でむずかしい課題だと思ふ。けれど、何年後、何十年後にか、そんな自分にあえるように、今から少しずつ自分をみがいていきたい。そう考えている。

